

教具の工夫と教師との対話を通して、  
活動への達成感や話すことへの自信を高める授業

ことばの教室 2（言語障害）通級指導教室 自立活動学習指導案

指導者 網代 明子

1. 題材名 たいらなしたで かぜの おとを だそう

2. 題材について

(1) 対象児について 1年生（週2回通級）

①ことばの様子

(5月)

- ・ [sa][su][se][so], [dza][dzu][dze][dzo], [tsu], [ta][te][to], [da][de][do]が歪む。
- ・ [ke][ge]が[te][de]に置換したり、歪んだりする。
- ・ 舌を出した際に、奥舌の中央部分が挙上し、舌全体が波打つ様に動く様子が見られる。
- ・ ことばの初めの音を繰り返したり、詰まったりすることがある。学校ではあまり見られないが、家庭では時々見られ、随伴症状を伴うこともある。

(幼稚園年長時)

- ・ [sa][su][se][so]が[k][ka][ku][ke][ko], [dza][dzu][dze][dzo]が[g][ga][gu][ge][go], [tsu]が[k], [ta][te][to]が[k][ka][ke][ko], [da][de][do]が[g][ga][gu][ge][go]に近い音で歪んでいる。

②弁別

- ・ [su][ta][ke]の正誤弁別（他者の音で正しい音と誤り音を聞き分ける）ができる。

③その他

- ・ 聴力に問題はない。
- ・ 自発的な発話は少ないが、教師の問いかけに短い言葉で答えることができる。
- ・ 音読では、声が小さいが、すらすらと読むことができる。

(2) 指導観

本児の発音の誤りは、[sa][su][se][so]が[k][ka][ku][ke][ko], [dza][dzu][dze][dzo]が[g][ga][gu][ge][go], [tsu]が[k], [ta][te][to]が[k][ka][ke][ko], [da][de][do]が[g][ga][gu][ge][go]に近い音で歪んでいること、奥舌が挙上すること、さらに舌先を使って発音していないことから口蓋化構音であると考えられる。

そこで指導においては、舌を奥まで平らに保持することに重点を置いていく。これまでの指導で、舌をまっすぐに、口蓋垂が見えるように出せるようになってきている。一方で、舌全体が波打つ様に動き、奥舌が挙上する様子が見られることからまだ舌に力が入っていると思われる。そこで、練習への意欲を高めるために練習方法の工夫をすることで、舌の脱力を目指したい。

発音指導では、誤り音の多いサ行音から始めたいと考える。[su]を導き、発音を練習していくために、まずは子音の /s/（風の音）を正中から出せるようにしていく。/s/を正中からまっすぐに出すためには、奥まで平らな舌で息を出す必要がある。練習においては、息がまっすぐに出ているかを視覚的に確認する手立てを取ることによって、舌が平らになっているかについて子ども自身が考えることができるようにしていきたい。

本児は、学習において教師の話をよく聞き、一生懸命に取り組む一方で、声が小さく話すことへの自信がないように思われる。そこで、教師との会話や練習において楽しさや達成感をもって学習に向かうことによって、自分の話したいことを楽しく話せるようにしていきたい。

以上のような本児の実態と指導の必要性から本題材を通して、以下の手立てを取っていく。

①話すことが楽しいと思える活動

導入時には、楽しい話題で教師と会話することで、安心して楽しい気持ちで活動に取り組めるようにする。また、本児は音読が上手であることから、国語の教材や絵本などを音読することで自信をもって楽しく言葉を発することができることをねらいたい。

②平らな舌の練習

子ども自身が舌の動きについて考えることができるように、チェックリストを使うなど評価の視点をあらかじめ教師が明確に示した上で、活動に取り組むようにする。鏡やタブレット端末などを見て練習する際に、舌の奥や動きに着目して練習するために、子ども自身や教師が舌の様子を表現していくようにしたい。教師が言語化、動作化、図示するだけでなく、教師との対話を通して子ども自身が表現することがめあてを意識して練習する上で重要であると考え。

③風の音の練習

本児は、奥舌が上がりやすいことから、舌を出した状態で練習することで確実に正中から息が出せることを目指したい。息が正中から出ていることを視覚的に確認しながら、練習を重ねていけるようにしたい。そのために、鼻息鏡だけでなく、ティッシュや紙、スズランテープなどを用いた教具の工夫をすることで楽しみながら練習に取り組めるようにしていく。息が正中から出せた際には、舌の形はどうだったかを問いかけることで平らな舌を意識していけるようにしたい。

④弁別

弁別の練習は、構音練習に先行して行うことができるので、[sa][su][se][so]や[ta][te][to], [ke]などの弁別の練習にも取り組む。その際に、即時評価をして正しい音と誤り音の違いに気づけるようにしていく。

3. 題材の目標

- 【2 心理的な安定 (3)】学習に進んで取り組もうとしている。
- 【6 コミュニケーション (2)】目的音について他者の発音の正誤を聞き分けることができる。
- 【6 コミュニケーション (2)】[su]を正中から出すことができる。

4. 全体指導計画 (40時間扱い)

時間 活動	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	1/40					本時 28/40			
弁別	<sup>ス</sup> [su][ <sup>タ</sup> ta][ <sup>ケ</sup> ke] → ・異同弁別 ・正誤弁別 (単音節→単語→句→文)								
平らな舌	・舌をべーっと出す →舌をまっすぐに出す →脱力して奥まで平らにする →平らな舌を保持する →真ん中が凹んだお皿を作る →お皿のまま奥が凹む ・舌を出して息を正中から出す (ソフトブローイング, 風車など)								
音作り	・ / s / (風の音) ・ <sup>ス</sup> [su]								

5. 本時の指導（28 / 40）

(1) 目標

- 【2 心理的な安定 (3)】 平らな舌や息出しの練習に進んで取り組もうとしている。
- 【6 コミュニケーション (2)】 目的音について他者の発音の正誤を聞き分けることができる。
- 【6 コミュニケーション (2)】 舌の奥まで平らな状態を10秒間程度保持することができる。

(2) 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・ 子どもの反応	○支援 ☆評価 (方法)	資料
4分	1. お話タイム 楽しかったことや頑張っていること等を話す。 サッカーの練習をした。 ○○に遊びに行った。	○安心して楽しく話ができるように、本児にとって話しやすい話題を聞き出す。	
3分	2. 学習内容と本時のめあての確認 ①たのしくようもう ②たいらなした ③ソフトブローイング ④○×クイズ (弁別練習) ⑤お楽しみ	○見通しをもって学習に取り組めるように、本時の学習内容をホワイトボードに書いておく。 ○家庭での練習ができたかどうか確認し、頑張りを褒める。	ホワイトボード 通級ファイル
5分	3. たのしくようもう 「あいうえおのうた」や絵本などを音読する。	○読むことに対して自信をもつことができるように、リズムよく楽しく読めていることなどを称賛する。	音読シート や絵本
	したの おくまで たいらにしよう。		
10分	4. 平らな舌 舌を思いきり出す。 舌を口角につける。 舌を唇にのせて脱力する。 口蓋垂が見えるようにする。 できれば10秒間保持する。 ◎どうすれば、息が真ん中から出るかな。 ・舌を平らにする。 ・口蓋垂が見えるようにする。	○舌の奥が下がるように、舌を思いきり出すことをしてウォーミングアップとする。 ○教師の手本を見せて、平らな舌のポイントを確認してから練習に取り組む。 ○教師と対話することで、なぜ舌の奥を下げる必要があるのかについて考えることができるようにする。 ○鏡やタブレットでの録画を見て、口蓋垂が見えているか、舌の奥が挙上していないかについて尋ね、どうしたらよくなるかを考えることができるようにする。 ○できていることを適宜称賛する。 ☆舌の奥まで平らな状態を10秒間程度	チェックリスト 鏡 タブレット 端末

10分	5. ソフトブローイング ストローを使った息出し	保持することができたか。(観察)  ・ストローの位置や息の出し方について即時評価で伝える。 ・舌が平らになっていることに子ども自身が気づくように、舌の形について教師が問いかけ、自己評価を促す。 ・タイマーで時間を図り、記録に挑戦することで、練習への意欲を図る。	ストロー コップ タイマー
5分	6. 弁別練習 正音と誤り音を聞き分ける。 [su][ta][ke]の単語	○目的音が正音か誤り音かどうかを聞き分けることができるようにするために、弁別が正しかったか即時評価により伝える。 ☆[su][ta][ke]について他者の発音の正誤を聞き分けることができたか。 (観察)	○×シート
5分	7. お楽しみ 好きな遊びをしながら、平らな舌の保持を練習する。	○これまでにできるようになったことの定着を図ると共に、練習への意欲を高めるために楽しい遊びをしながら練習できるようにする。 ○遊びは、教師が提案した遊びから選んでもらう。	おもちゃ等
3分	8. 本時の振り返り 頑張ったことやできるようになったことを確認し合う。 家庭での練習内容を確認する。	○本時のめあてについて自己評価をしたり、教師が称賛したりする。 ☆学習に進んで取り組もうとしていたか。(観察)	通級ファイル

【参考文献】

「わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法 舌運動訓練活用法」山下由香里・武井良子・佐藤亜紀子・山田絃子 (2020) 学苑社